

救急・内科系集中治療部

部長 松田 直之 (教授)

急性期管理のすべてを凝集

救急・内科系集中治療部 (Emergency & Medical ICU: EM-ICU) は、院内外の急変病態に即座に対応し、急性期管理の最先端を提供します。主病態の治療に加え、全身性炎症の緩和と再生促進、感染制御と栄養管理などを基盤とし、多臓器不全管理を適正化します。

診療体制

全10床、年中無休。救急科専門医・集中治療専門医などをスタッフとし、さらに救急・集中治療医学の専従医師によるICU内主治医制により、主体性の高い完全Closed ICUシステムとして運用され、治療方針にブレのない急性期医療を達成します。主治医は、教授、准教授、講師、助教のスタッフにより適切に指導されます。

対象病態

成人および小児を対象とし、意識障害または昏睡、急性呼吸不全または慢性呼吸不全の急性増悪、ショック、急性薬物中毒、重篤な代謝障害（肝不全、腎不全、糖尿病ケトアシドーシス、環境異常症など）、多発外傷、蘇生後脳症、重症敗血症などの急性期全身管理を必要とする病態。

特色

敗血症を代表とする全身性炎症反応症候群および播種性血管内凝固症候群の治療成績は世界水準よりはるかに高い。一方、上述したすべての急性期病態に対して、全身を多角的かつ総合的に捕らえる急性期管理を得意とするスタッフで運営されています。

診療実績

2011年5月より開始され、同年6月1日より6床、同年10月1日より10床運用となり、年間約400例以上の緊急性と重症性の高い病態に対応します。

専門外来

救急・内科系集中治療部として院内急変に対するRapid Response Systemに対応し、急性期病態を即座に感知し、当部への搬入を速やかに行えるように考案中です。

その他の取り組み

世界レベルのEBM医療を把握する一方で、難治的症例に対しては世界最先端の知識を網羅し、大学病院ならではの最先端の急性期治療を提供します。このような治療内容が臨床研究としてなされる場合、倫理委員会の承認を得た後、十分な説明と承諾の後に行われます。



血液浄化部

部長 坪井 直毅 (講師)

高まる需要に合わせ、血液浄化療法全般に取り組む

当院の血液浄化療法を担っている部門で、ICUとも連携しています。

診療体制

10病床あり、月水金シフトは2クール、火木土シフトは1クールを医師、臨床工学技士、専任看護師にて運用しています。HD・HDFのほかPE、DFPP、L/G-CAPなど各種血液浄化療法を施行しています。専任看護師が腹膜透析（CHPD）外来指導にも携わっています。

対象疾患

末期腎不全患者の血液透析導入のほか、維持透析患者の外科系周術期透析、あるいは薬剤や手術、自己免疫疾患、敗血症などによる急性腎不全や肝不全、炎症性腸疾患、神経疾患など広い範囲にわたる疾患に対し血液浄化療法を施行しています。

特色

重症感染症・多臓器不全・心血管系疾患・悪性疾患に対し、ICU管理や心臓外科・臓器移植手術、骨髄移植、癌化学療法など高度専門・先進医療を行う当院だからこその、重症多発合併症患者における急性血液浄化。

診療実績

のべ施行件数：血液透析2,300件、血漿交換60件、白血球除去180件。年間新規透析導入患者数：50名。（いずれも2011年度概数）

その他の取り組み

高まる需要に合わせ2009年5月から火木土シフトの運用を開始し、同年10月からは血液浄化部になりました。血液浄化療法全般に関連する装置・薬剤・器材の研究、急性期患者における安全な透析方法の確立などにも取り組んでいます。

